

上北農業生産情報 第1号

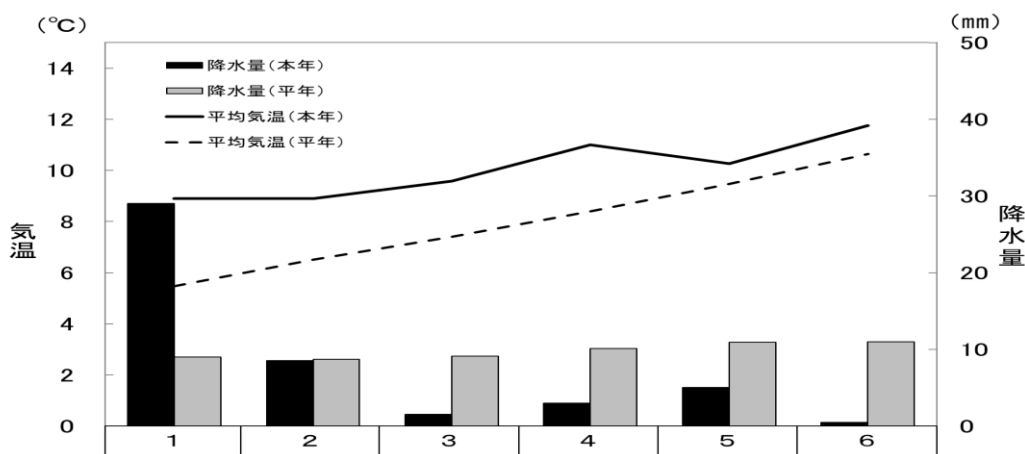
令和8年5月8日
青森県上北農林水産事務所

春の農作業安全運動展開中（実施期間：令和8年4月1日～令和8年5月31日）

【農作業事故を防ぐポイント】

- 作業環境に危険な箇所がないか確認し、改善・整備を行いましょ！
- シートベルトの着用など、農業機械の転落・転倒対策を徹底しましょ！
- 家族や周りの人など、地域全体で声をかけ合いましょ！
- 1人での作業は避け、やむを得ず1人で行う場合には、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちなしょ！
- 万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入しましょ！

気象



月旬別気温・降水量の推移 (十和田アメダス)

【4月】

- ・平均気温は、第1から第6半旬のいずれも平年より高かった。
- ・日照時間は、第1、2半旬は少なかった。
- ・降水量は、第1半旬は平年より多く、第2半旬は平年並、第3～6半旬は平年より少なかった。

【4月の気象 (十和田アメダス)】

注) 各半旬の気温は5日間の平均、日照時間及び降水量は5日間の合計

項目 時期	平均気温 (°C)		最高気温 (°C)		最低気温 (°C)		日照時間 (hr)		降水量 (mm)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
第1半旬	8.9	5.5	14.4	10.9	3.6	0.0	16.4	29.8	29.0	9.0
第2半旬	8.9	6.5	14.8	12.1	4.6	0.9	18.0	30.5	8.5	8.7
第3半旬	9.6	7.4	16.1	13.2	3.3	1.6	46.2	30.8	1.5	9.1
第4半旬	11.0	8.4	17.4	10.9	3.1	2.4	42.7	31.0	3.0	10.1
第5半旬	10.3	9.5	16.0	15.4	4.0	3.3	47.7	31.7	5.0	10.9
第6半旬	11.8	10.6	18.8	16.6	4.5	4.4	33.8	32.5	0.5	11.0

東北地方 1か月予報(4月25日から5月24日までの天候見通し)

令和8年5月7日 仙台管区気象台発表

- 暖かい空気に覆われやすいため、気温はかなり高くなる見込み。
- 日照時間は平年並の見込み。
- 天気は数日の周期で変わる見込み。

水 稲

《は種状況》

管内のは種始め(5%進ちよく)は平年より1日遅い4月10日、は種最盛期(50%進ちよく)は平年より1日遅い4月15日であった。

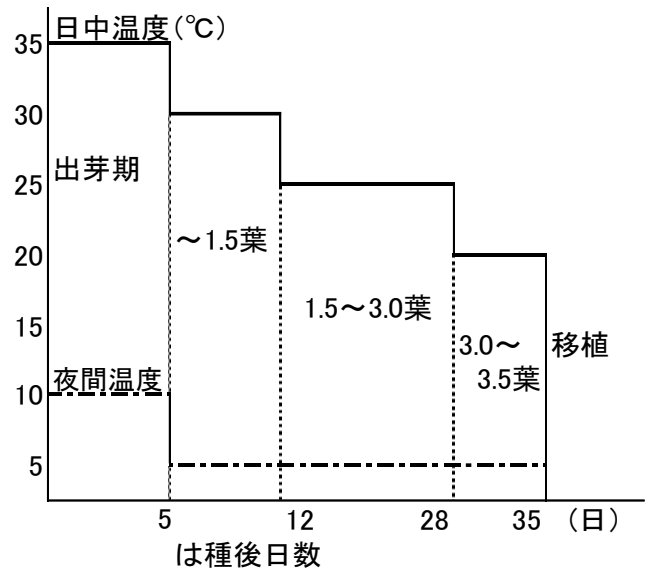
【は種進ちよく状況】

項目 区分	水稻作 付面積 (ha)	4月15日現在 は種面積		年次	は 種		
		(ha)	(%)		始 (月/日)	最盛期 (月/日)	終 (月/日)
上北地区	8,372	4,182	50.0	本年	4/10	4/15	4/22
				平年	4/9	4/14	4/21

《今後1か月間の主な作業》

1 育苗管理(中苗)

- ア 育苗ハウスやトンネル内に正確な温度計を設置し、随時温度を確認しながら、苗の生育に合わせたきめ細かな温度管理を行う(右図参照)。
- イ 降霜や低温が予想される場合、シルバーポリトウ等の被覆資材で苗を被覆するとともに、石油ストーブ等の暖房器具も併用し、保温する。
- ウ 田植え1週間前頃からは、霜や強風の心配がない限り夜間もハウスやトンネルを開放し、外気に慣らして丈夫な苗に仕上げる。



育苗の温度管理(中苗)

2 水管理

- ア かん水は、箱土が乾いて苗の葉先が巻き始めたら、午前中に育苗箱の底までしみ込むよう十分に行う。
- イ 機械的に毎日かん水すると徒長・軟弱な苗となり、病害が発生したり、田植え後の生育にも影響するので、箱土の乾燥具合を判断してかん水する。

3 病虫害防除

- ア いもち病や初期害虫等を予防する箱施用剤は、薬剤毎に使用時期や方法が異なるため、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。
- イ 水稻の育苗ハウス跡地に他作物を栽培する場合、いもち病等の予防防除は、ハウス外に育苗箱を並べて箱施用剤を処理するか、本田防除に切り替える。

4 本田管理

ア 畦畔のかさ上げと補強等

- ・低温時 15～20cm 程度の深水管理を行えるように畦畔のかさ上げ・補強をする。

イ 本田施肥

- ・食味・品質の向上と気象の変動に対応できる米づくりを行うため、地帯別・品種別の施肥基準を守る。特に、多肥栽培は食味・品質の低下を招くので行わない。
- ・低温や病害等に対する抵抗力を高めるため、堆肥等の有機物やケイカル等の土壌改良資材を積極的に施用する。

ウ 代かき、田植えの準備

- ・代かきは、田面に高低差が生じないように、丁寧に行う。
- ・田植えの適期は、日平均気温が 13℃以上となる時期が目安である。機械の点検整備等を早めに行い、田植えの準備を進める。

小麦

《生育状況》

- 1 県生育観測ほの 4 月 10 日現在の生育は、草丈は平年比 149%、㎡当たり茎数は同じく 74%であった。
- 2 幼穂形成期は平年並の 4 月 1 日であった。
- 3 雪腐病、湿害の発生は見られない。

【県生育観測ほの生育状況（品種：ネバリゴシ）】

調査地	年次	は種期 (月/日)	4 月 10 日現在		幼穂形成期 (月/日)
			草丈(cm)	茎数(本/㎡)	
十和田市相坂	本年	10/ 5	27.7	1,022	4/ 1
	平年	9/29	18.6	1,384	4/ 1
	前年	10/ 6	19.2	1,108	4/ 9

注) 平年値は平成 23 年～令和 7 年の平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

1 追肥

一穂粒数を確保し子実のたんぱく質含有量を高めるため、止葉抽出期（平年 5 月上旬）に追肥を行う。追肥量は 10 a 当たり窒素成分で 2 kg を基準とするが、ほ場の地力や茎葉の繁茂状況、葉色等を考慮して増減する。

※止葉抽出期：止葉が出現した茎が全体の 4～5 割に達した時期

2 病虫害対策

ア うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に行うと、上位 2 葉での発生を少なく抑えることができる。

イ 赤かび病の防除は 1 回目を開花始め～開花期（平年 5 月下旬）、2 回目をその 7 日後に行い、予防散布を徹底する。

大豆

《今後 1 か月間の主な作業》

1 排水対策

転作田に作付けする場合は、明きよや弾丸暗きよを設置し排水対策を徹底する。

2 土づくり

- ア 大豆の生育に適した土壌酸度は pH6.0～6.5 である。酸性の強いほ場や転作田では生育不良や根粒菌の活性低下を招くため、苦土石灰などで酸度矯正する。
- イ 出芽、苗立ちを揃えるため、ロータリーで碎土し、丁寧に整地する。

ながいも

《掘取作業状況》

春掘り作業は、平年並みの3月10日頃から始まり、好天にも恵まれ順調に進んでいる。いもは長く、秋掘り時より折損は少ないものの、折れが見られる状況となっている。種子の掘取も順調に進んでおり、年子は細長い形状も多くなっている

《今後1か月間の主な作業》

1 収穫

地温の上昇に伴い芽が動き始めるので、できるだけ早く春掘作業を終える。

2 植付け準備

ア 畑の準備

- ・土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用する。

イ 種いもの準備

- ・ウイルス病等の被害がなく、形状の良いものを選び、大きさ別に分ける。
- ・土壌病害を防ぐために、種子消毒を行う。

3 植付け

ア 50～100g 程度の子いもは頂芽を付けたまま、5月上旬に植付けする。

イ 100～150g 程度の子いもは、頂芽を切除して5月中旬～6月上旬に植付けする。

ウ 切いもは120～150g 程度に切断して、5月下旬～6月上旬に植付けする。

4 種子生産

むかごによる1年子生産は4月下旬～5月上旬に植付け、小切片による2年子生産は5月下旬～6月上旬に植付けする。

5 輪作

連作による土壌病害を防ぐため、輪作を行う。

にんにく

《生育状況》

- 1 県生育観測ほの4月20日現在の生育は、草丈は48.1cmで平年比112%、生葉数は5.4枚で平年比95%、茎径は16.1mm 枚で平年比107%と平年並に推移している。さび病はみられないが、春腐病がわずかに発生している。りん片分化期は4月16日であった。
- 2 上北管内の一般ほ場の消雪日は2月中旬～下旬であった。消雪以降、高温で推移したため、生育は平年並～上回っている。さび病と春腐病がわずかに発生している。
なお、上北管内のりん片分化期(最早値)は六戸町で4月8日、十和田市で18日、七戸町が4月16日、東北町大浦川内で4月15日、東北町長久保で4月19日であった。

【県生育観測ほの生育状況（4月20日現在）（品種：白玉王）】

調査地	年次	植付月日	草丈(cm)	生葉数(枚)	茎径(mm)	りん片分化期
七戸町榎林	本年	10/5	48.1	5.4	16.1	4/16
	平年	10/2	43.0	5.7	15.0	4/17
	前年	10/17	42.4	5.5	14.4	4/21

注) 平年値は平成 28 年～令和 7 年までの平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

1 病害虫防除

- ア さび病は病斑を発見しだい、効果の持続期間が長い薬剤を選択して初期防除を徹底する。その後もほ場をよく見回り、新しい病斑を確認したら再散布して蔓延防止を図る。
- イ 春腐病などの病害は降雨や濃霧が感染のきっかけとなるので、気象予報等を参考に、降雨前や濃霧後の予防防除を行う。春腐病による腐敗株は伝染源となるので、必ず抜き取ってから、薬剤散布する。
- ウ 使用する薬剤の「総使用回数・収穫前日数」に注意し、薬液の散布量は生育量に応じて増やしながら、薬液が葉裏にも十分付着するように丁寧に散布する。

2 管理作業

- ア 複数萌芽している株は、生育の良い芽を残し、一方の芽は早めに株元から除去する。
- イ 葉色が淡く生育が停滞しているほ場や葉先枯れが目立つほ場では、根張り状態を確認するとともに、葉面散布剤を利用しながら追肥作業を進める。

春だいこん

《は種・生育状況》

- 1 県生育観測ほ(トンネルマルチ栽培)のは種は平年より 4 日早い 3 月 16 日で、出芽は良好だった。4 月 2 日に降雪があったものの 4 月 10 日現在、生育は概ね順調である。
※葉数は平年を上回っているが、未除覆のため葉長は測定できなかった。
- 2 一般ほ場のトンネル栽培のは種は、平年よりも 7 日早い 3 月 2 日から始まり、25 日頃にはほぼ終了した。べた掛け栽培のは種は、平年よりも 4 日早い 3 月 15 日頃から始まり、4 月 10 日頃が最盛期となった。

【県生育観測ほの生育状況(品種:春の星)】

調査地	年次	は種期 (月日)	4 月 10 日現在	
			葉長(cm)	葉数(枚)
おいらせ町内山平	本年	3/16	—	3.0
	平年	3/20	8.3	2.5
	前年	3/23	—	—

注 1) 平年値(は種期)は平成 28 年～令和 7 年までの平均値

注 2) 4/10 現在の平年値については平成 28 年～令和 5 年の平均値

《今後 1 か月間の主な作業》

1 温度管理

密閉したままのトンネル内は日中に高温となりやすく、葉ヤケなどの障害が生じる恐れがあるため、生育ステージに応じた適正な温度管理を行う。ただし、気温が高い日が続く場合は生育ステージに限らず穴開けを行う。

春夏にんじん

《は種・生育状況》

- 1 県生育観測ほのは種は、昨年並の 3 月 24 日となった(R 6 よりトンネル栽培からべた掛け栽培へ作型変更)。発芽揃いは 4 月 4 半旬であった。

2 一般ほ場のトンネル栽培のは種は例年並の3月10日から始まり、最盛期は3月下旬であった。

べた掛け栽培のは種は3月15日頃から始まり、最盛期は例年並の4月15日で、終わりは4月20日頃であった。

《今後1か月間の主な作業》

1 温度管理

トンネル栽培では、生育ステージに応じて適正な温度管理を行う（出芽～4葉期は30℃以下、5葉期以降は25℃以下とする）。

ごぼう

《今後1か月の主な作業》

1 畑の準備

ア 排水対策を徹底し、土壌診断に基づき土壌改良資材を施用して土づくりを行う。

イ やけ症を未然に防止するため、未熟有機物や過剰な堆肥施用はしない。

ウ 土壌消毒を行う場合は使用上の注意を守る（クロルピクリン剤などの土壌くん蒸剤を使用する際は、必ずポリエチレンフィルム等（厚さ0.03mm以上または難透過性資材）で被覆する）。

2 は種・防除

適期には種し、アブラムシ類の防除を行う。

ばれいしょ

《植付・生育状況》

1 県生育観測ほの植付けは平年より9日早い3月20日に行われた。

2 一般ほ場のマルチ栽培での植付作業は、3月中旬から始まり、最盛期は4月上旬で、終わりは4月下旬であった。

《今後1か月間の主な作業》

1 芽出し

マルチ栽培では、萌芽が進んだら適期に穴をあけ、順次芽出し作業を行う。

りんご

《生育状況》

1 十和田市米田地区の発芽日は、「ジョナゴールド」が平年より3日早い3月31日、「王林」が平年より6日早い3月29日、「ふじ」が平年より2日早い4月5日であった。

2 展葉日は、「ジョナゴールド」が平年より4日早い4月9日、「王林」が平年より5日早い4月9日、「ふじ」が平年より3日早い4月14日であった。

3 今後も気温は高く推移すると予想されることから、ふじの開花日は、平年より3日早い5月3日であった。

【県生育観測ほの生育状況】

調査地	品種生態	年次	ジョナ ゴールド	王 林	ふ じ
十和田市米田	発芽日	本年	3/31	3/29	4/ 5
		平年	4/ 3	4/ 4	4/ 7
	展葉日	本年	4/ 9	4/ 9	4/14
		平年	4/13	4/14	4/17

注) 平年値は、「ジョナゴールド」「王林」が平成22年～令和7までの過去15年の平均値、「ふじ」は平成19年～令和7までの過去18年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

1 霜害対策

花芽の耐凍性は生育の進みとともに低下するので、気象情報に十分注意して霜害対策に万全を期す。

ア 燃焼法

- ・燃焼資材をあらかじめ園地の邪魔にならない所に配置しておき、霜注意報が出たら点火位置に移動する。地上1.5mの高さの気温が0℃になったら点火する。
- ・燃焼法を利用する際は、「火災と紛らわしい煙又は火災を発生する恐れがある行為の届出書」などを所轄の消防署に事前に提出する。

イ 燃焼資材

- ・霜カット（おがくず：灯油の容量比＝2：1）
霜カット2kgを缶又は袋に入れ、10a当たり40～60個配置する。
- ・A重油
4リットル缶を利用する場合は、10a当たり30缶以上を配置する。

2 薬剤散布

「ふじの開花直前」の散布時期は5月3～4半旬頃である。コンフューザーRを5月中旬に設置する。黒星病、モニリア病の重点防除時期なので、必ず適期に散布する。

牧 草

《生育状況》

- 1 十和田市の生育観測ほの消雪は、平年より24日早い3月5日であった。
- 2 採草地の施肥作業は、3月下旬から始まっている。
- 3 生育観測ほの4月10日時点の草丈は20.3cmで大幅に生育が進んでいる。

【県生育観測ほの生育状況（品種：オーチャードグラス）】

調査地	年次	消雪期 (月/日)	4月10日現在 草丈(cm)
十和田市米田	本年	3/ 5	20.3
	平年	3/29	11.8
	前年	3/26	12.6

注) 平年値は令和7年までの過去10か年の平均値

《今後1か月間の主な作業》

牧草は出穂始期から出穂期に刈り取りし、乾草またはサイレージに調製する。

飼料用とうもろこし

《今後1か月間の主な作業》

1 ほ場の準備

完熟した堆肥を4～8 t/10 a 施用し、プラウ等により土壌とよく混ぜる。碎土や整地が不十分な場合、発芽不良となり欠株が生じやすくなるほか、除草剤の土壌処理効果が劣るので、できるだけ丁寧に行う。

2 は種

10 a 当たり栽植本数は、極早生品種で8,000本、早生種で7,000本、中生・晩生品種で6,000本を標準とし、5月上旬から遅くても5月末までには種を終えるようにする。

3 雑草防除

優先雑草の種類に応じて適切な除草剤を選択し、農薬の登録内容等を確認して適正に使用する。